

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1171900259
法人名	株式会社カネット・ふれあい
事業所名	ふれあい多居夢戸田
所在地	〒335-0015 埼玉県戸田市川岸3丁目5番9号 (電話) 048-447-7000

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年11月27日

【情報提供票より】(平成 20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年3月20日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	31 人	常勤	20人, 非常勤 11人, 常勤換算 21.1人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋造り
	4階建ての2階～4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	40,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日あたり 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	63 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新田クリニック、戸田中央総合病院、ラビット歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、目の前に公園があり側には桜の木が黄色に色づいて、環境の良い静かな場所に立つ4階建て3ユニットのグループホームである。夏祭りのお神輿の御神酒所として提供したり、地域住民による園芸ボランティアを受け入れるなど地域との交流に努め、中学生の社会体験チャレンジ事業も受け入れて地域との連携を図っている。また、医療との連携体制もとられており、利用者の状況に合わせて随時対応することが可能である。利用者の気持ちを尊重し、一人ひとりのペースを大切にしながら希望にそった支援となるよう努めているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の取り組みについてはホーム長を中心にスタッフの意見を聞きながら活用したが、評価結果を活用するまでには至っていない。職員を育てる仕組みについては研修の体系化やホーム内での伝達研修等が行われている。介護計画の作成とその見直しについて、課題であった全員の介護計画の作成とその見直しの仕組みも整備され、居室担当の役割がケア計画の作成に組み込まれ、職員の士気が上がっている。鍵を掛けないケアの実践については、建物の構造上引き続き今後への課題として残されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>3ユニットそれぞれのホーム長が職員の意見を聞きながら自己評価に取り組んだ。職員の意見の反映方法もそれぞれのリーダーに一任という形を取ったが、取り組みの過程の一部には評価課題の十分な理解には至っていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は3か月に1回開催されている。メンバーは民生委員、介護保険担当職員、家族代表、本社員、職員である。議題を決めながら活発な意見を出し合って検討し、報告書を作成することで全職員で共有し、会議を活かした取り組みがなされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月1回、手紙で利用者の状況等を報告している。また、意見箱が設置されているほか、運営推進会議に家族の代表が参加していることで、意見を吸い上げる取る仕組みが出来ている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、回覧板から情報を得ることができる。夏祭りの神輿の御神酒所として場所を提供したり、自治会の盆踊りなどに参加しているほか、中学生のボランティアも受け入れるなど、地域との連携を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念「高齢者の尊厳と自立を支える」を掲げている。なお、年2回、全職員が集まり理念についての会議が開催されている。		地域密着型サービスの役割を盛り込んだ事業所独自の理念を職員で作りが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念を玄関に掲示している。職員は理念を共有して日々の実践の中に取り組むよう意識しているが、まだ十分ではない。リーダー会議やフロア会議の中で理念を実践するためのケアについて話し合いはもたれている。		理念として掲げられた文言に対する職員の共通理解を深めていくことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板から地域の情報を得ることもできる。エコ活動を通して近隣の人々と交流を図ったり、中学生のボランティアの受け入れ、地域の行事への参加なども行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受け、その結果を職員会議等で検討している。業務日誌においては、利用者の日々の変化に目を向け、ケアプランに沿った記述がされるようになるなどの成果もあげている。今回の評価に当たっても各フロアのホーム長を中心に職員の参加で自己評価がまとめられている。		一方で自己評価を記入した職員の評価に対する理解が深めきれず、事実の読み取りと取り組んで行きたい内容についての記述の混乱やフロア間の合意形成の不十分さが見られる。管理者を中心に評価項目について更に深められることに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回、運営推進会議を開催している。メンバーである民生委員、行政職員、家族代表、本社社員、職員参加のもと、議題を決めて意見を出し合っている。会議の内容については、全職員で共有し、サービスの向上に活かした取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市の職員による訪問があり、ケアに関するアドバイス等を受けながら連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、手紙により利用者の状況等を報告している。また、金銭管理についてもあわせて確認してもらうほか、イベントで撮った写真などが掲載された「ふれあいだより」も定期的に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表が参加しており、表出された意見等をできる限り反映するようにしている。また、家族の面会時には、意見を聞き入れる体制を取っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については法人の通達、各事業所でのお知らせ等で周知している。利用者やその家族への報告についてはホーム長に一任している。		経常的な人材不足の中でスタッフを確保することが困難な現状から、職員の異動が行われることもある。そのことで利用者や家族が不安になることは否めない。周知の方法を工夫し、利用者や家族に不安を与えない取り組みの検討が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の研修に参加している。外部での研修については通知文で案内し、情報交換している。その他、スキルアップ研修をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県グループホーム協議会に加入している。戸田市介護者連絡会で話し合いが行われ、交流をもちながら情報の共有をしている。地区で行われる活動に参加することで、ネットワーク作りは出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>居室担当者を中心に安心して環境を整備して、徐々に生活に馴染んでいけるよう配慮している。また、必ず本人に説明をし、サービス提供において自己決定していただくように心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の気持ちを尊重しながら希望にそったケアをしている。一緒に支えあう関係を大切にして、毎日の生活を観察しながらその日の気分、リズムに合わせて話を聞き思いを共有するようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の生活パターンを尊重した支援を心がけている。時間に捉われることなく本人の思いを把握した上で、意思に即した対応を心がけている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当者がフロア会議で状況を報告し、意見交換をしている。問題重視のプランではなく、複数の視点を持ち、家族と相談しながら職員全員で介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人、家族との話し合いが持たれ、希望を聞き、居室担当者を中心にして現状に沿った計画を立てており、作成された介護計画への同意も得ている。定期的な見直しは3か月ごとに行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、ショートステイを受け入れたこともある。主治医による24時間緊急連絡体制がとられており、体調不良の際は随時対応している。職員に看護師が配置されているので、必要に応じて処置等もやっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の受診を継続できるようになっている。協力病院である戸田病院には臨時の夜間救急にも応じて頂いている。その他、歯科検診も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに看取りの経験がある。重度化した時点で主治医より予後についての説明を受け、家族と話し合いの上対応を検討している。スタッフ間でもケアの方向性について検討し、方針の共有を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけなどをする時には本人の聞こえるトーンで話すように心がけている。記録等は周りの目に触れないよう保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のことを一番に考え、一人ひとりのペースに合わせてケアしている。日々の生活の中で、声かけをしながら利用者の気分にも配慮し、本人にストレスを感じさせないよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には、利用者が食べたいものを取り入れ、好みに合うように工夫している。また、利用者と一緒に買い物に行ったり、後片付けや配膳などにも参加して頂いている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週2回は入浴できるように支援している。時間帯については利用者の希望を聞いて対応している。入浴を拒否される方に対しては、タイミングをみて入浴してもらうように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	パラ見学や盆踊りなど季節を感じられる外出支援や誕生会などを楽しんだり、力を活かした役割や趣味をもてるように努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園まで散歩したり、日常的に買い物へ出かけているほか、玄関や1階のフロアに出て外気浴をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、エレベーター、非常口、階段は施錠されている。建物の構造上、玄関での人の出入りがわからない。非常口はスタッフルームで解錠できる仕組みになっており、スタッフは日々、非常口解錠のトレーニングを受けている。		居室のある2階から4階までの全てがロックされ、利用者の行き来が出来ない事が常態化されている。外部からの侵入者等の心配もあることから玄関の施錠については課題も多い。利用者のいる2階から4階までの階段を開放するなど、工夫を通して鍵をかけないケアの実践に結びつく取り組みを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防訓練をしているほか、避難訓練を定期的に行っている。災害時の避難場所を全スタッフに周知するとともに、災害時のマニュアル、職員連絡網も作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く食事摂取出来るように声かけ、介助を行い、水分チェックもなされている。食事は摂取しやすいように細かくするなど工夫されている。食事摂取量、水分確保量を記録した一覧表により体調不良などの変調が分かり、栄養士が時々チェックして毎月の献立表を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはいくつかのソファを置き、いつでも寛げるように配慮している。フロア内には季節の花が飾られ、和やかな雰囲気のある空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具が持ち込まれ、家族の写真なども飾られて、利用者一人ひとりの個性がある居室作りがされている。		